

高原町文化財調査報告書 第3集

高 原 町 遺 跡 詳 細
分 布 調 査 報 告 書

1 9 9 8 . 3

宮 崎 県 西 諸 県 郡
高 原 町 教 育 委 員 会

序

高原町教育委員会では、長年の懸案事項でありました町内全域の遺跡詳細分布調査を、平成8年度と平成9年度の2箇年にわたり、文化庁・県教育委員会の御指導・御援助をいただき実施してまいりました。

今回の調査は、地下に埋もれている埋蔵文化財の範囲を明らかにするために、現地踏査及び試掘調査による遺物採集を中心に実施いたしました。

調査は、平成8年度に町内東部、平成9年度に町内西部を実施しました。以前は約20箇所程の遺跡が確認されていましたが、この調査により、南部の一部地域を除いて、町内のほぼ全域に縄文時代から近世にいたるまでの遺跡が分布していることが確認され、その数も、合計すると約130箇所になりました。

しかしながら、今回の調査には限度があり、南部の一部地域を含め、作物などの関係で調査をすることができなかった箇所もあり、未発見の遺跡が数多く存在することが予想されます。

遺跡は、その性格上、一度破壊されると正確な調査は極めて困難となります。したがって、今後開発事業等が計画される場合には、町教育委員会と十分な協議をしていただきますよう、よろしく御願いたします。

最後になりましたが、この遺跡詳細分布調査にあたり、御指導・御援助をいただきました文化庁・県教育委員会ならびに町民の皆様に対し、心から御礼申し上げます。

今後とも、本町の文化財行政に対する御指導・御協力をいただきますよう、よろしく御願い申し上げます。

平成10年3月

高原町教育委員会

教育長 正 入 木 久 男

例言

1. 本書は、高原町教育委員会が平成8年度から平成9年度にかけて文化庁・県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書です。
2. 本調査は、埋蔵文化財に関する調査であり、内容は当町全域を対象とする埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡分布図の作成であります。
3. 本書に掲載された埋蔵文化財は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」です。
4. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には文化財保護法により「発掘（工事）に着手しようとする日の60日前までに文化庁長官に届け出る必要がありますので、土木工事等の計画段階から下記へ事前に照会・協議してください。また、国および地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要です。
高原町教育委員会社会教育課 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地
TEL 0984-42-2111
宮崎県教育委員会文化課 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号
TEL 0985-26-7250～1
5. 埋蔵文化財は、地下に埋もれている性格上、現在、未発見で工事中発見される場合があります。その場合は、文化財保護法の規定により「その現状を変更することなく、遅滞なく文化庁長官に届け出る」必要があります。そのため、「周知の埋蔵文化財包蔵地」の周辺で工事等を計画する場合はなるべく事前に高原町教育委員会社会教育課に照会してください。
6. 本書及び埋蔵文化財に関するお問い合わせは、高原町教育委員会社会教育課または宮崎県教育委員会文化課へお願いします。
7. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の25,000分の1の地形図を複製したものです。（承認番号平6九複、第163号）

凡 例

1. 指定文化財の範囲については、（青色）で、埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）の範囲については（赤色）で示している。点として所在する指定文化財、または古墳等で一基単独で所在するものについては各々（・）で表示している。
2. 地図の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。
3. 「遺跡番号」は、集落跡・散布地・城跡等は一番号を付した。
4. 「遺跡番号」は、大字で区分し、H 0 1 番からを広原地区、K 0 1 番からを蒲牟田地区、N 0 1 番からを西麓地区、U 0 1 番からを後川内地区とした。
5. 遺跡名は、原則として小字名にしたがい、一部のものについては、通称、俗称によった。また、遺跡範囲の明確でないものについては遺跡群とした。
6. 遺跡の所在地は、大字名、小字名で示した。詳細については、高原町教育委員会及び県教育委員会文化課へ照会してください。

7. 調査の組織

調査主体	高原町教育委員会	
	正入木 久 男	教育長
	益 本 忠 男	社会教育課長（～平成9年3月）
	増 田 賢 一	社会教育課長（平成9年4月～）
	森 山 博 文	社会教育係長（～平成9年3月）
	篠 原 弘 二	社会教育係長（平成9年4月～）
庶務担当	樋 口 富 子	主 査
調査担当	大 學 康 宏	主 事
調査指導	面 高 哲 郎	県文化課係長（～平成9年3月）
	石 川 悦 雄	県文化課主査（～平成9年3月）
	北 郷 泰 道	県文化課係長（平成9年4月～）
	永 友 良 典	県文化課主査（平成9年4月～）
調査補助員	稲留俊男、稲留シゲ、川畑英春、黒木勝子、高野瀬加代子、 高原實、高原洋子、斉藤やす子、下村早志、下村春信、瀬戸 山春子、中村信義、宮田信子、若松キヨ子	

目 次

I. 高原町の位置と歴史的環境	1
II. 指定文化財地名表	5
III. 埋蔵文化財包蔵地地名表	9
広 原 地 区	11
蒲 牟 田 地 区	14
西 麓 地 区	15
後 川 内 地 区	16
IV. 試掘調査概要報告	19
川 除 遺 跡	21
遠 目 塚 遺 跡	25
V. 高原町関係文献目録	28

袋綴じ

高原町遺跡分布図 [1 : 25, 000]

I、高原町の位置と歴史的環境

高原町の位置と歴史的環境

1 位 置

高原町は、宮崎県の南西部、霧島山地の東麓に位置する。町域は東西約18km、南北約10km、総面積85.38km²、中央部がくびれており、東西に長い。霧島屋久国立公園の高千穂峰を鹿児島県との境界に持ち、南は鹿児島県霧島町、宮崎県の都城市・山田町・高崎町、北は野尻町・小林市と接している。市街地は、町の北東を流れる、岩瀬川の支流である辻の堂川により形成された、標高約 200m前後の丘陵にある。

2 歴史的環境

高原町では、背後に霧島山地を抱えている関係上、昔から噴火の被害に遭うことが多く、始良・丹沢（A T）火山灰をはじめ、アカホヤ・牛の脛火山灰（カシワバン）・高原スコリア等、県内外で遺跡の年代決定に使用される火山灰が、他市町村よりもはっきりと確認できる。が、その反面、それぞれの火山灰の層が厚く、又硬質であるため、特に旧石器時代の調査などは皆無である。

高原町では、神武天皇の生誕の地という伝説や、高千穂峰における天孫降臨などの神話に関するものは様々残っているが、埋蔵文化財の場合、有識者が少ないこともあって、それほどの関心は持たれていなかった。

高原町内の遺跡は、昭和59年発行の『高原町史』では、わずか2箇所の遺跡が報告されているのみであった。しかし、それ以前での、九州自動車道などの開発行為に伴って分布調査が行われ、その結果、昭和51年度発行の『全国遺跡地図―宮崎県―』では、17箇所報告されている。

次に、これまで調査・報告されている遺跡について、時代別に概略を挙げる。

旧石器時代の遺跡は先にも言った通り、全く確認されていない。

縄文時代の遺跡は、大谷遺跡（H45）、高原畜産高校遺跡（H30）が多く確認されている。高原畜産高校遺跡は、昭和43(1968)年の新校舎建設に伴う造成工事中に土器を発見、発掘調査が行われ、縄文時代後期を中心とした土器が出土した。又、大谷遺跡では以前からの造成工事で遺物が露出していることが知られていたが、表採及び発掘調査を通じて、多量の縄文土器を検出した。

それ以前の遺物は、佐土遺跡（H43）表採で曾畑式が、広原地区遺跡（H28）では牛の脛火山灰以前、つまり縄文時代早期辺りまでさかのぼることのできる土器が確認されている。

弥生時代の遺跡は、先に挙げた高原畜産高校遺跡の他は不明である。

古墳時代の遺跡では、集落跡の調査としては、立山遺跡（N01）が唯一である。これは平成7年の高原中学校移転に伴って発掘調査が行われたが、堅穴住居30軒、掘立柱建物2軒、その他、軽石製の炉などが発見された。

高原町における発掘調査の内、その殆どが突発的に発見される地下式横穴墓の調査である。

例を挙げると、昭和47年(1972)に農作業に農作業中に1基発見された湯ノ崎地下式横穴墓（N03）、昭和50年(1975)に牧野改良のための造成工事中に、台地の東端から13基発見された旭台地下式横穴墓群（H38）、昭和54年(1979)、同55年(1980)、同56年(1981)に立て続けに約20基発

見された日守・仮屋尾地下式横穴墓群（U37）、昭和63年(1988)の圃場整備中に発見、2度にわたる調査により72基発見された立切地下式横穴墓群（U19）、がある。

平安時代の遺跡では、先にいった、立山遺跡と広原地区遺跡が挙げられる。この2つの遺跡から同じような畠と推定される畝状の遺構が台地のほぼ全面にわたって検出された。作物については、根菜類との推定がなされている。

又、中世の城館跡では、記録に登場し、かつ位置も確認されているのは、高原城跡（N02）のみである。

高原町では、遺跡の発掘調査や、古文書等の解読もごく僅かしか進んでいないので歴史的には依然不明確なので、今後の調査の進展がのぞまれる。

II、指定文化財地名表

指定文化財地名表

番号	文化財名称	所在地	種別	指定	指定年月日	備考
1	狭野の杉並木	大字蒲牟田字狭野 下狭野 狭野神社内	天然記念物	国	大正13年12月9日	旧番号 3
2	狭野神社ブッポウ ソウ繁殖地	大字蒲牟田字狭野 狭野神社内	天然記念物	国	昭和9年5月1日	旧番号 14
3	高原古墳	大字蒲牟田字狭野	史跡	県	昭和9年12月15日	旧番号 20

	旧黒木家住宅	大字蒲牟田字祓川 (県立総合博物館 民家園に移築)	有形文化財	国	昭和48年2月23日	
--	--------	---------------------------------	-------	---	------------	--

1. 無形民俗文化財は除く
2. 備考に掲載している旧番号は、昭和51年度発行の『全国遺跡地図～宮崎県～』の番号である。

Ⅲ、埋蔵文化財包蔵地地名表

広 原 地 区 H 0 1 ～ H 4 6

蒲 牟 田 地 区 K 0 1 ～ K 2 3

西 麓 地 区 N 2 0 ～ N 2 0

後 川 内 地 区 U 0 1 ～ U 3 7

1. 番号は地図の番号と一致している。
2. 備考に掲載している旧遺跡名・旧番号は、昭和51年度発行の『全国遺跡地図～宮崎県～』の遺跡名・遺跡番号である。
又、本書作成以前に使用されていた遺跡名もあわせて掲載している。

埋蔵文化財包蔵地地名表

広原地区（H01～）

遺跡 番号	遺跡の名称	所在地	時代	種別	備考
H01	上平遺跡群	大字広原字刈目	古墳・近世	散布地	
H02	千谷遺跡	大字広原字千谷	縄文・古墳 近世	散布地	
H03	大迫第1遺跡	大字広原字大迫	古墳	散布地	
H04	大迫第2遺跡	大字広原字大迫	古墳	散布地	
H05	入佐遺跡	大字広原字入佐	古墳	散布地	
H06	池ノ尾遺跡	大字広原字池ノ尾	時期不明	散布地	
H07	宮ノ前遺跡	大字広原字宮ノ前	古墳	散布地	
H08	諏訪屋敷	大字広原字諏訪屋敷、宮ノ前	近世	城館跡	
H09	遠目塚遺跡	大字広原字遠目塚	古墳・近世	散布地	
H10	井手ノ上遺跡	大字広原字井手ノ上、池ノ原	古墳・近世	散布地	
H11	東遺跡	大字広原字東、井手ノ上、池ノ原	縄文・古墳 平安・近世	散布地	
H12	中尾遺跡	大字広原字中尾	古墳・近世	散布地	
H13	今房遺跡群	大字広原字今房、今房尻、中尾	古墳・平安 中世・近世	散布地	
H14	立脇遺跡群	大字広原字立脇	縄文～近世	散布地	
H15	下刈目遺跡	大字広原字下刈目	縄文・古墳 近世	散布地	
H16	鷹巣原遺跡群	大字広原字鷹巣中尾、上鷹巣原、下鷹巣原	縄文～平安 中世・近世	散布地	
H17	木場田遺跡	大字広原字木場田	縄文・古墳 近世	散布地	
H18	三福神遺跡	大字広原字南川内、八久保	縄文・古墳 近世	散布地	
H19	鳩取山第1遺跡	大字広原字鳩取山、南川内	縄文～平安 近世	散布地	
H20	鳩取山第2遺跡	大字広原字鳩取山	近世	散布地	
H21	鳩取山第3遺跡	大字広原字鳩取山	古墳・近世	散布地	
H22	柳野遺跡	大字広原字柳野	古墳～平安	散布地	旧番号13

遺跡 番号	遺跡の名称	所在地	時代	種別	備考
H23	鷹巣谷遺跡	大字広原字鷹巣谷	古墳～平安	散布地	
H24	山ノ田遺跡	大字広原字山ノ田	古墳・近世	散布地	
H25	中対前遺跡	大字広原字中対前	古墳・近世	散布地	
H26	上温谷遺跡	大字広原字上温谷	古墳	散布地	
H27	高塚遺跡	大字広原字高塚、上温谷	平安・近世	散布地	
H28	荒迫遺跡群	大字広原字荒迫	縄文～平安	包蔵地	調査時遺跡名 広原地区遺跡
H29	前温谷遺跡	大字広原字前温谷	縄文・古墳	散布地	荒迫遺跡 旧番号 23
H30	広原第1遺跡	大字広原字広原	縄文・古墳	包蔵地	高原畜産高校遺跡 旧番号 14
H31	広原第2遺跡	大字広原字広原	古墳	散布地	
H32	広原第3遺跡	大字広原字広原	古墳・近世	散布地	
H33	広原第4遺跡	大字広原字広原	近世	散布地	
H34	広原第5遺跡	大字広原字広原、荒迫	縄文～古墳	散布地	広原遺跡 旧番号 24
H35	広原第6遺跡	大字広原字広原	古墳	散布地	
H36	大鹿倉遺跡群	大字広原字大鹿倉	弥生～古墳	包蔵地	
H37	旭台遺跡	大字広原字旭台	古墳	散布地	
H38	旭台地下式横穴 墓群	大字広原字旭台、南鞍懸	古墳	地下式横穴 墓	
H39	南鞍懸第1遺跡	大字広原字南鞍懸	古墳	散布地	
H40	南鞍懸第2遺跡	大字広原字南鞍懸	古墳	散布地	
H41	常盤台遺跡	大字広原字常盤台	弥生～古墳	散布地	旧番号 16
H42	水源地遺跡	大字広原字木場野	古墳～平安	散布地	旧番号 15
H43	佐土遺跡群	大字広原字佐土	縄文～古墳	散布地	
H44	藤兵衛山遺跡	大字広原字藤兵衛山	縄文～古墳	散布地	

遺跡 番号	遺跡の名称	所在地	時代	種別	備考
H45	大谷遺跡	大字広原字大谷	縄文～古墳	包蔵地	
H46	樽野遺跡	大字広原字樽野	時期不明	散布地	

埋蔵文化財包蔵地地名表

蒲牟田地区（K 0 1 ～ ）

遺跡 番号	遺 跡 の 名 称	所 在 地	時 代	種 別	備 考
K01	刀脇遺跡	大字蒲牟田字刀脇	弥生～古墳	散布地	旧番号 17
K02	花堂遺跡	大字蒲牟田字高松	古墳	散布地	旧番号 18
K03	黒鳥川内遺跡	大字蒲牟田字黒鳥川内	古墳	散布地	
K04	堀切遺跡	大字蒲牟田字堀切	古墳	散布地	
K05	落敷遺跡	大字蒲牟田字落敷	古墳	散布地	
K06	小塚遺跡	大字蒲牟田字小塚下	古墳・中世 近世	伝地下式横 穴墓・城館	旧番号 19
K07	小塚廃寺	大字蒲牟田字小塚下	近世	社寺跡	
K08	上馬場遺跡	大字蒲牟田字上馬場	古墳	散布地	
K09	豆付遺跡	大字蒲牟田字豆付	近世	散布地	
K10	内堀遺跡	大字蒲牟田字内堀	古墳・近世	散布地	
K11	小手原第 1 遺跡	大字蒲牟田字小手原	近世	散布地	
K12	小手原第 2 遺跡	大字蒲牟田字小手原	近世	散布地	
K13	木場前遺跡	大字蒲牟田字木場前	近世	散布地	
K14	神徳院跡	大字蒲牟田字狭野	平安～近世	社寺跡	
K15	狭野第 1 遺跡	大字蒲牟田字狭野	近世	散布地	
K16	狭野第 2 遺跡	大字蒲牟田字狭野	近世	散布地	
K17	狭野第 3 遺跡	大字蒲牟田字狭野	古墳・近世	散布地	
K18	宇津木遺跡	大字蒲牟田字宇津木	時期不明	散布地	
K19	錫杖院跡	大字蒲牟田字祓川	平安～近世	社寺跡	
K20	大久保第 1 遺跡	大字蒲牟田字大久保	古墳	散布地	
K21	大久保第 2 遺跡	大字蒲牟田字大久保	古墳	散布地	
K22	山神原第 1 遺跡	大字蒲牟田字山神原	時期不明	散布地	
K23	山神原第 2 遺跡	大字蒲牟田字山神原	縄文・古墳	散布地	

埋蔵文化財包蔵地地名表

西麓地区（N 0 1～ ）

遺跡 番号	遺跡の名称	所在地	時代	種別	備考
N01	立山遺跡	大字西麓字立山	弥生～平安	包蔵地	旧番号 25
N02	高原城跡	大字西麓字西城戸、城ノ下	中世～近世	城館跡	旧番号 26
N03	湯ノ崎地下式横 穴墓群	大字西麓字湯ノ崎	古墳	地下式横穴	旧番号 22
N04	湯ノ崎第 1 遺跡	大字西麓字湯ノ崎	古墳	散布地	
N05	屋敷野遺跡群	大字西麓字屋敷野、池ノ原、 湯ノ崎	縄文～平安 中世～近世	散布地	
N06	天付遺跡	大字西麓字天付	弥生～古墳	散布地	
N07	城ノ向第 1 遺跡	大字西麓字城ノ向	古墳～平安	散布地	
N08	城ノ向第 2 遺跡	大字西麓字城ノ向	古墳	散布地	
N09	池ノ原遺跡	大字西麓字池ノ原	古墳	散布地	
N10	代五郎遺跡	大字西麓字鳥井原、代五郎	古墳～平安	散布地	
N11	木場谷遺跡	大字西麓字木場谷	古墳	散布地	
N12	唐崎第 1 遺跡	大字西麓字唐崎	古墳	散布地	
N13	鹿児山第 1 遺跡	大字西麓字鹿児山	古墳・近世	散布地	
N14	坂ノ上第 1 遺跡	大字西麓字坂ノ上	縄文～平安	散布地	
N15	坂ノ上第 2 遺跡	大字西麓字坂ノ上	弥生～古墳	散布地	
N16	梅ヶ久保第 1 遺跡	大字西麓字梅ヶ久保	古墳	散布地	
N17	梅ヶ久保第 2 遺跡	大字西麓字梅ヶ久保、坂ノ上	古墳	散布地	
N18	目ノ崎第 1 遺跡	大字西麓字目ノ崎	古墳～平安	散布地	
N19	目ノ崎第 2 遺跡	大字西麓字目ノ崎	古墳	散布地	
N20	瀬口遺跡	大字西麓字瀬口	古墳	散布地	

埋蔵文化財包蔵地地名表

後川内地区（U 0 1 ～ ）

遺跡 番号	遺 跡 の 名 称	所 在 地	時 代	種 別	備 考
U01	吉牟田遺跡	大字後川内字吉牟田	縄文・古墳	散布地	東原遺跡 旧番号 78
U02	東原遺跡	大字後川内字東迫	古墳	散布地	
U03	東平遺跡	大字後川内字東平	縄文・古墳	散布地	
U04	土橋遺跡	大字後川内字土橋	縄文・古墳	散布地	
U05	大久保第 1 遺跡	大字後川内字大久保	古墳・平安	散布地	
U06	大久保第 2 遺跡	大字後川内字大久保	古墳・平安	散布地	
U07	奥城跡	大字後川内字温水	中世	城館跡	
U08	温水第 1 遺跡	大字後川内字温水	古墳	散布地	
U09	温水第 2 遺跡	大字後川内字温水	時期不明	散布地	
U10	赤木八重遺跡	大字後川内字赤木八重	古墳・平安	散布地	
U11	井ノ原遺跡	大字後川内字井ノ原	古墳	散布地	
U12	川路山遺跡	大字後川内字井ノ原、川路山	古墳	散布地	
U13	川除遺跡	大字後川内字川除、脇藤	縄文～近世	包蔵地	旧番号 36
U14	宮ノ谷遺跡	大字後川内字宮ノ谷	弥生・古墳	散布地	旧番号 35
U15	向原第 1 遺跡	大字後川内字向原	古墳	散布地	
U16	向原第 2 遺跡	大字後川内字向原	古墳	散布地	
U17	向原第 3 遺跡	大字後川内字向原	弥生・古墳	散布地	
U18	轟遺跡	大字後川内字轟	縄文～古墳	散布地	
U19	立切地下式横穴 墓群	大字後川内字立切	古墳	地下式横穴 墓・包蔵地	
U20	立切第 1 遺跡	大字後川内字立切	古墳	散布地	
U21	広木遺跡	大字後川内字広木	古墳	散布地	
U22	後原遺跡	大字後川内字後原	古墳	散布地	

遺跡 番号	遺跡の名称	所在地	時代	種別	備考
U23	大迫遺跡	大字後川内字大迫	古墳・平安	散布地	
U24	入木遺跡	大字後川内字入木	弥生・古墳	散布地	
U25	宮ノ原遺跡	大字後川内字宮ノ原、後原	古墳・平安	散布地	
U26	中野遺跡	大字後川内字中野	古墳	散布地	
U27	崎原第1遺跡	大字後川内字崎原	古墳	散布地	
U28	崎原第2遺跡	大字後川内字崎原	時期不明	散布地	
U29	川平遺跡	大字後川内字春君、小久保	古墳	散布地	
U30	中平第1遺跡	大字後川内字中平	古墳	散布地	
U31	中平第2遺跡	大字後川内字中平	古墳	散布地	
U32	鹿児山第2遺跡	大字後川内字鹿児山	古墳	散布地	
U33	唐崎第2遺跡	大字後川内字唐崎	時期不明	散布地	
U34	日守第1遺跡	大字後川内字日守1-1	古墳	散布地	
U35	日守第2遺跡	大字後川内字日守1-2	古墳	散布地	
U36	日守第3遺跡	大字後川内字日守1-1	時期不明	散布地	
U37	日守地下式横穴 墓群	大字後川内字日守1-1	古墳	地下式横穴 墓	旧番号 27

IV、試掘調査概要報告

川 除 遺 跡 (U 1 3)

遠 目 塚 遺 跡 (H 0 9)

川 除 遺 跡

1 遺跡の位置

川除遺跡は、高原町の東部、後川内地区にある。後川内の中心には、東西に流れる炭床川があり、その南北には、川に向かって張り出した台地がいくつもあり、周辺の遺跡も、それらの台地で数多く確認されている。川除遺跡は、現在の後川内の中心地となっている台地に形成されており、地区の小学校・中学校・郵便局などが設置されている。

以前より遺跡の存在は確認されていたものの、その性格・時期などは全く不明であった。

2 調査に至る経緯

遺跡内に所在する後川内小学校では、体育館が老朽化したため、新たに体育館と職員駐車場を建設することになり、教育委員会教育総務課より社会教育課に対して遺跡の有無の照会があった。先にも触れた通り、遺跡そのものの詳細が不明ということもあり、建設予定地内において、遺構・遺物の遺存状況、及び遺跡の時期の確認のための調査を平成8年12月12日から16日までの延べ3日間実施した。

調査の結果、遺構・遺物の状況が確認されたので、建設について協議した結果、建設を変更することは不可能ということになり、体育館の建設予定地については発掘調査を実施し、記録保存の措置をとることとなった（発掘調査については平成9年8月25日から10月31日まで実施）。

3 調査の概要

調査は、予定地内に試掘溝を5箇所設置した。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層ボラを多く含む黒褐色土、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層橙色土（2次アカホヤ）、第Ⅴ層カシワバンとなっている。

第Ⅰ層及び第Ⅱ層は、客土、もしくは整地土と考えられ、実質の遺物包含層は、第Ⅲ層、第Ⅳ層である。

第1トレンチは土層確認のため、第2トレンチから第5トレンチは遺構・遺物確認のために、第Ⅳ層上面でそれぞれ精査した。

第1トレンチでは、第Ⅳ層に第Ⅲ層の土が入り込んだ状態で、浅い溝状遺構が断面で確認できた。

第2トレンチでは、同じく深さ約20cmの浅い溝状遺構と、用途不明のピットを2個検出した。

第3トレンチでは、同じく幅40～50cm、深さ10cm前後の浅い溝状遺構と、不明土坑1基を検出した。

第4トレンチでは、同じく幅20～30cm、深さ約10cmの溝状遺構3個と、第Ⅴ層であるカシワバンを敷き詰めた遺構を検出した（平成9年度の調査で道路跡と推定）。

第5トレンチでは、同じく幅50cm、深さ約10cmの溝状遺構1個を検出した。

4 調査の結果

遺物は、第2・3・5トレンチで確認された。いずれも第Ⅲ層中から第Ⅳ層上面にかけてである。第5トレンチでは、第Ⅳ層上面よりさらに掘削したところ、古墳時代と推定される土器片が出土した。他の土器についても、古墳時代の南九州での代表的な土器型式である「成川式」と考えられることから、この遺跡は、古墳時代を中心として形成されたことが判明した。

※平成9年9月から11月にかけて同遺跡を発掘調査したところ、石鏃などの石器類・古墳～平安時代の土師器・鉄鏃・中世の銅銭などの遺物や、平安時代と推定される畝状遺構や中世の道路跡が検出された。





川除遺跡調査区遠景



川除遺跡第2トレンチ
溝状遺構



川除遺跡第5トレンチ

遠目塚遺跡

1 遺跡の位置

遠目塚遺跡は、高原町の北部、広原地区にある。霧島山地よりいくつもの川が東に向かって流れ、小林市・野尻町との境にある辻の堂川に合流するが、それらの川の間には、いくつもの丘陵があり、遺跡の大半はそこで形成されている。

同遺跡は、霧島山地より流れてくる川である、大丸川を北に、木場田・立脇川を南にみた丘陵に立地している。遺跡の範囲内には広原小学校などの施設がある。又、その丘陵の東麓には12世紀末に建立されたとする王子神社があり、最近までその下の低地に集落が営まれていたといわれている。

2 調査に至る経緯

遺跡内にある広原小学校では、学校内にある屋外プール施設について、老朽化のため、近隣の土地を購入し、新たに同施設を建設するという計画が持ち上がった。それにより、教育委員会教育総務課より社会教育課に対して遺跡の有無の照会があった。

遺跡については、詳細が全く不明であったので、平成9年12月1日・2日の延べ2日間試掘調査を実施した。

3 調査の概要

調査は、建設予定地内にトレンチを4箇所設置した。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層ボラを多く含む黒色土、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層アカホヤブロックの混入した硬質黄灰色土、第Ⅴ層アカホヤである。層序、及び遺構・遺物を確認するため、いずれも第Ⅴ層まで掘削したが、第Ⅳ層・第Ⅴ層がかなり堅くしまっているため、それ以上掘削することが困難なため、やむをえず第Ⅴ層上面までで止めた。

第1トレンチでは、第Ⅱ層と第Ⅲ層の間で、弥生時代から古墳時代のものと推定される土器片が3点出土した。遺構は全く検出できなかった。

第2・3・4トレンチでは、いずれも第Ⅴ層まで掘削したが、遺構・遺物は全く検出されなかった。

4 調査の結果

結局、遺物が確認されたのは、第1トレンチのみで、他のトレンチでは全くといっていいほど確認できなかった。又、他のトレンチでは近年整地されたような痕跡があり、これによって、包含層の殆どが削られてしまったものと推定される。

第1トレンチで検出された遺物については、隣の民家の際にあったため消滅を免れたものと推定される。





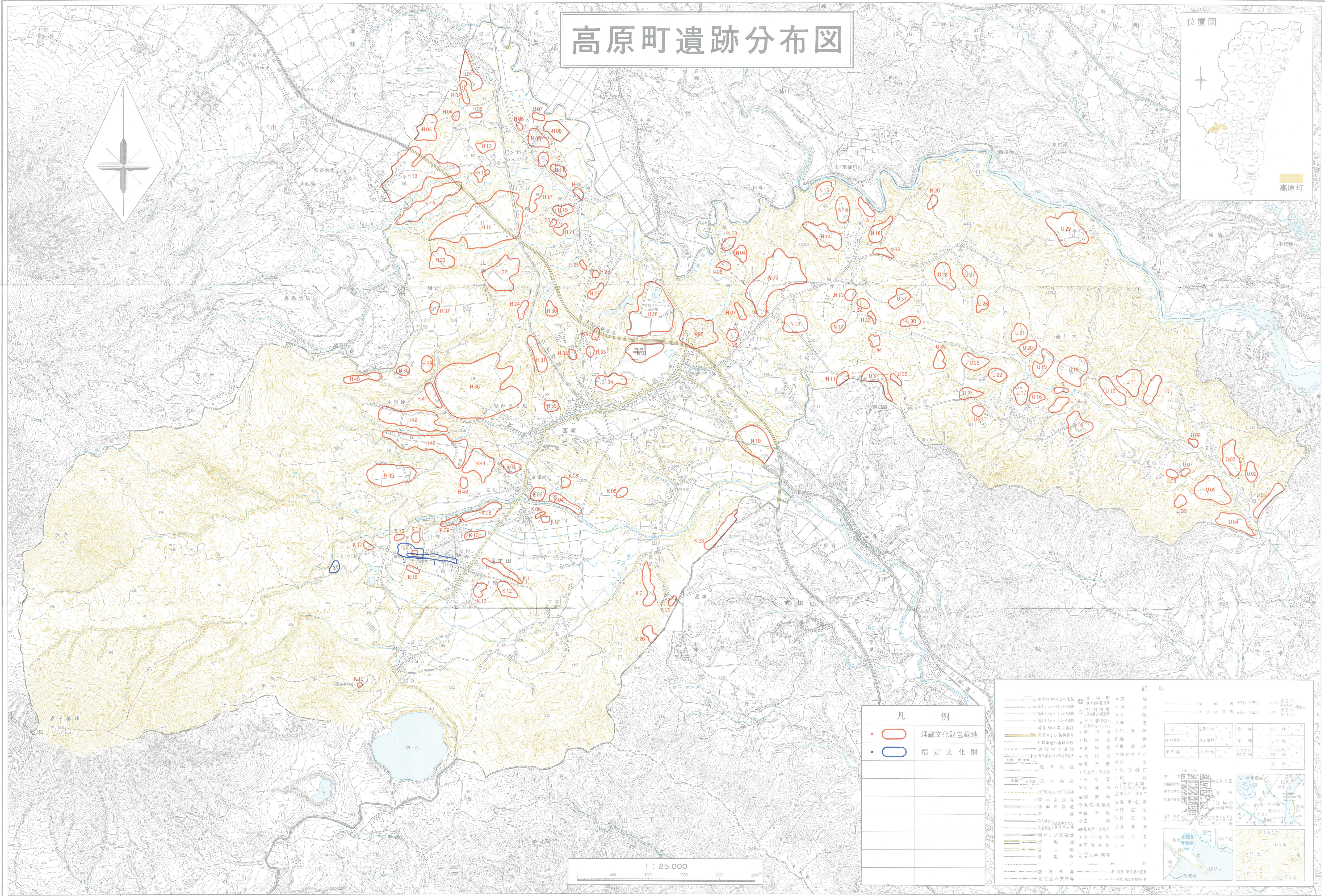
遠目塚遺跡調査区遠景



遠目塚遺跡第2トレンチ

V. 高原町関係文献目録

1. 平部山喬南 『日向地誌』 1884
2. 山本盛秀 『三国名勝図会』 1905
3. 石川恒太郎 『宮崎県の考古学』 吉川弘文館 1968
4. 文化庁 『全国遺跡地図－宮崎県－』 1977
5. 宮崎県 『宮崎県史 資料編 考古1』 1989
6. 宮崎県 『宮崎県史 資料編 考古2』 1993
7. 野口逸三郎 他 「宮崎県の地名」『日本歴史地名大系』第46巻 平凡社 1997
8. 石川恒太郎 「高原町縄文期包含層調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』
第16集 宮崎県教委 1972
9. 石川恒太郎 「高原町湯ノ崎地下式古墳調査報告書」『宮崎県文化財調査報告書』
第17集 宮崎県教委 1973
10. 石川恒太郎・日高正晴・岩永哲夫 「旭台地下式古墳群発掘調査」
『宮崎県文化財調査報告書』第19集 宮崎県教委 1977
11. 茂山護・岩永哲夫・面高哲郎 「日守地下式横穴（古墳）54－1～4号発掘調査」
『宮崎県文化財調査報告書』第22集 宮崎県教委 1980
12. 岩永哲夫・北郷泰道 「日守地下式古墳群55－1～4号発掘調査」
『宮崎県文化財調査報告書』第23集 宮崎県教委 1981
13. 岩永哲夫 「日守地下式古墳群確認調査」『宮崎県文化財調査報告書』第24集
宮崎県教委 1982
14. 面高哲郎 他 「立切地下式横穴墓群」『高原町文化財調査報告書』第1集
高原町教委 1991
15. 倉掛嵩三 他 『高原町の文化財』 高原町教委 1982
16. 黒木長英・高野瀬実男 『高原町史』 高原町 1984



この地図は、建設省国土院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平10九第210号)

高原町文化財調査報告書第3集

高原町遺跡詳細分布調査報告書

1998年3月

編集・発行 宮崎県高原町教育委員会
〒889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899
TEL 0984-42-2111

印刷 (株)長崎印刷
西諸県郡高原町大字後川内18-2